

グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する研究

—留学がその後のキャリアや人生に与える影響について—

科学研究費補助金（基盤研究（A））課題番号25245078 研究代表者：明治大学国際日本学部教授 横田雅弘

発表者：新見有紀子（一橋大学）横田雅弘（明治大学）太田浩（一橋大学）北村友人（東京大学）

研究の概要

背景

- ・全世界の留学生数の増加／日本人の海外留学者数の減少
- ・高等教育の質保証、学びの実質化をめぐる議論の高まり
- => グローバル社会で活躍しうる人材に求められるスキルと能力の明確化・測定の進展
- => 学生の海外学習の促進と、多様かつ効果的な国際教育プログラムの開発ニーズの高まり

研究の目的

- ・海外留学が留学経験者の留学後のキャリア形成や人生に与える中長期的なインパクトを明らかにする。グローバル人材の育成という喫緊の課題に取り組む大学（国際教育のカリキュラム改革等）と企業（人材育成とキャリア形成）に対する有益な示唆の提供も目的とする。

研究の方法

データ収集

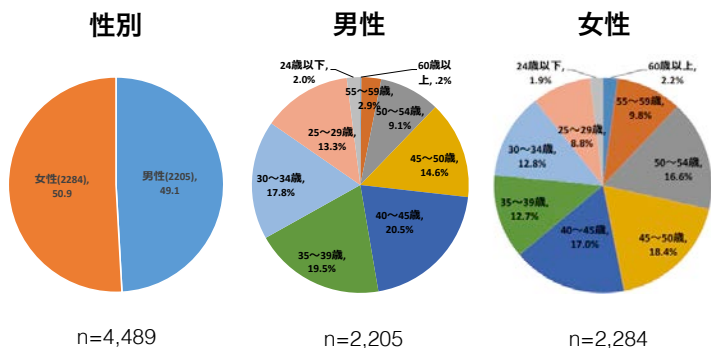
- ・大規模な回顧的追跡調査（オンラインによる質問紙調査）を実施。
- ・当該研究チームメンバーの個人的なネットワーク、国際教育等の分野に関連したメーリングリストやソーシャルメディア、民間の調査会社を通じて調査への参加協力を依頼。
- ・2014年12月～2015年5月上旬まで回答受付。
- ・総回収数：5227件
- ・有効回答数：4,489件（確定値）
- ＊重複や不正回答などを厳しくスクリーニング
- ・分析方法：本発表では、全体集計、クロス集計の結果の一部を報告する。今後はインタビュー調査を行い、すでに実施済みの雇用主調査との関連についても分析予定。

対象者

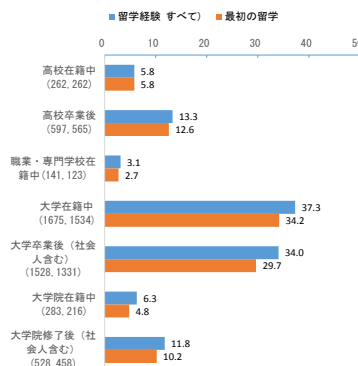
- ・現在社会人、もしくは過去に社会人を経験したことがある人
- ・小・中学校は主に日本で過ごし、高校卒業後に3か月以上の海外留学を経験した人（ただし、卒業後も留学を経験していれば、高校在学中に海外留学を経験していてもよい）
- ・留学先の対象は、高等学校、大学、大学院、職業・専門学校、語学学校（インターナショナルスクール・国際バカロレア、民間のダンススクールやプロスポーツの育成チーム（専修学校等に属さないもの）、民間のビジネス研修機関は含まない）
- ・海外留学の目的が語学習得や学位取得などであり、単なるボランティアやワーキングホリデーは含まない。

基礎データ

年代（現在の年齢）

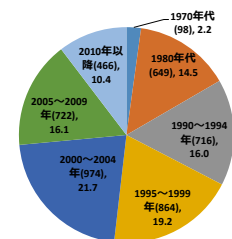


留学経験の時期 n=4,489

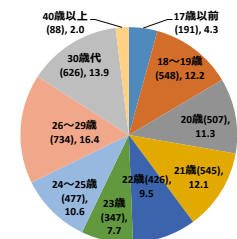


最大5つまで回答可能。同一時期の複数回の留学や、一度に複数の学校に留学した場合それぞれカウント。回答者の留学経験が複数回ある場合、回答者にとって最も重要な海外留学経験を選択してもらい、分析に用いている。複数回の留学経験者は2割。

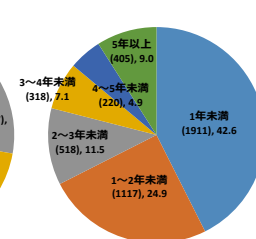
一番最初の留学の開始年 n=4,489



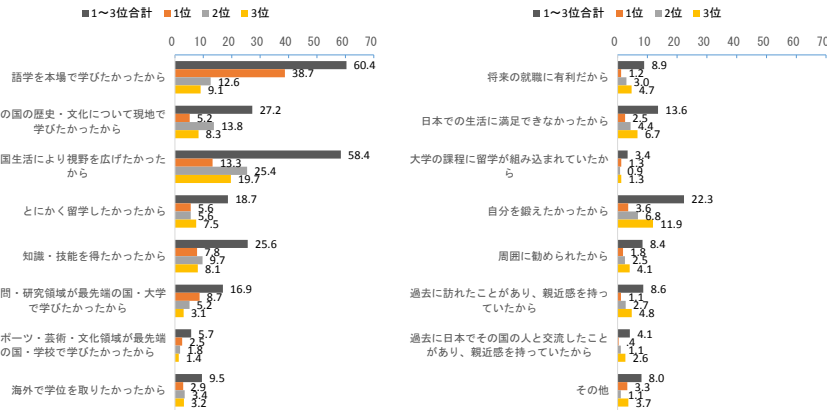
一番最初の留学の開始年齢 n=4,489



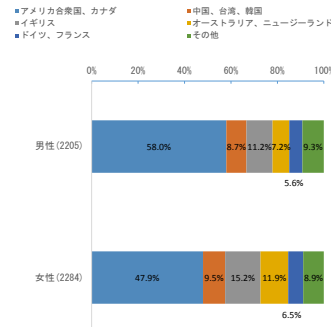
留学期間（合計） n=4,489



留学の主な目的 n=4,486

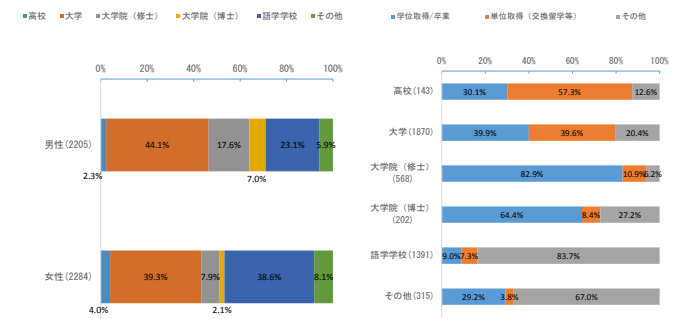


留学先国 (性別)



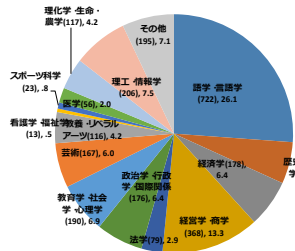
調査参加者の中では、アメリカへの留学が圧倒的に多い。

留学先学校種別 (性別・形態別)



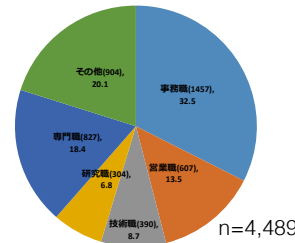
大学への留学が割合としては一番高い (交換留学、学位留学の両方を含んでいる)。

留学の専攻・専門分野 n=2,762

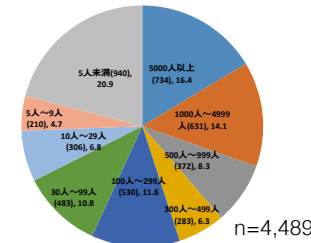


※分野無回答者 (n=1,727) について
n=1,727の内訳 (高校83/143、語学学校1,353/1,391、その他291/315)
※左記の集計値は、ほぼ大学・大学院への留学とみなしてよい。

現在の職種

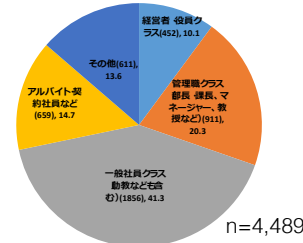


従業員規模

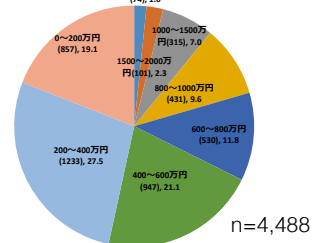


現在の職業について

役員

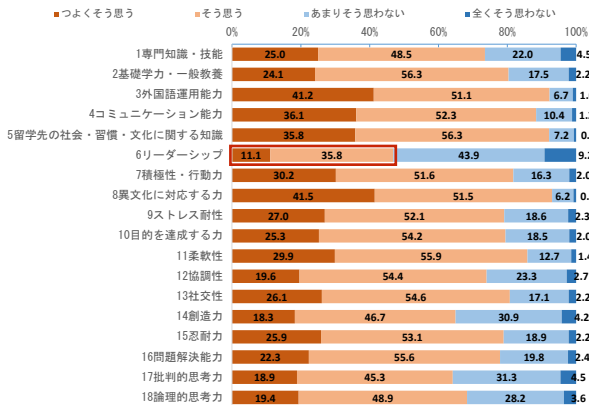


年収



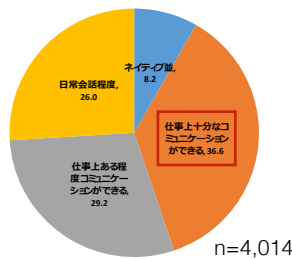
留学のインパクト (全体)

向上した能力 n=4,489

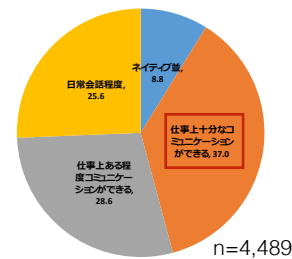


リーダーシップ向上の割合が極めて低い。

現在の英語のレベル

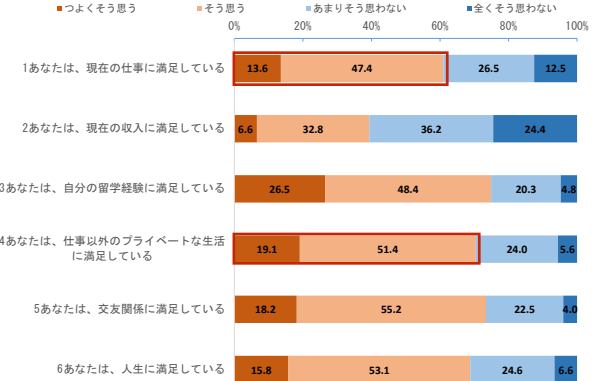


最もレベルが高いと回答した外国語のレベル



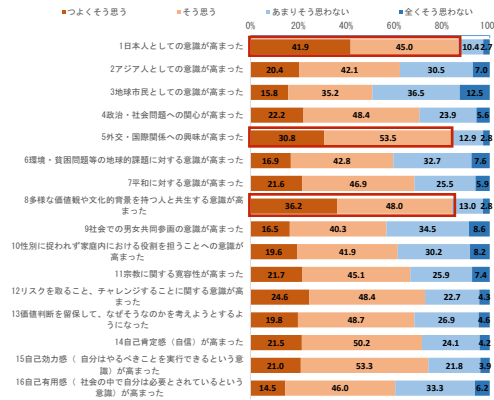
最もレベルが高いと回答した外国語のほとんどは英語であるが、仕事上十分なコミュニケーションができるレベル以上は、全体の45%程度。

人生の満足度 n=4,487



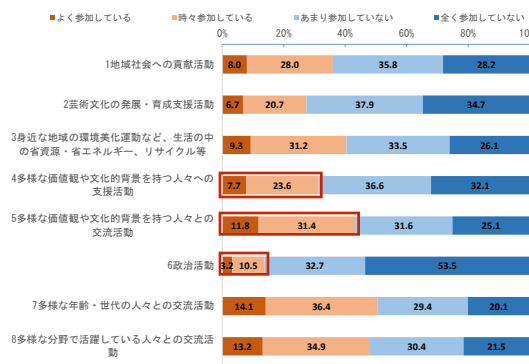
留学経験への満足度は8割弱と高いが、現在の仕事への満足度は6割程度にとどまる。

意識の高まり n=4,488



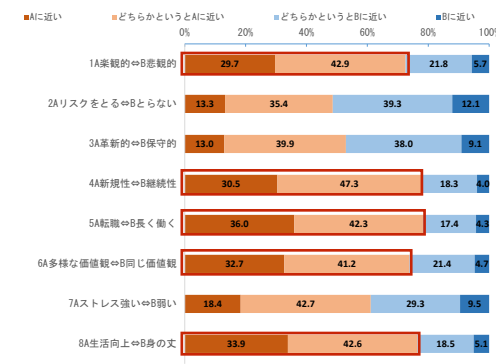
日本人としての意識、多様な価値観や文化的背景を持つ人と共生する意識、外交・国際関係への興味が高まったとの回答割合が高い。

業務外の活動への参加 n=4,487



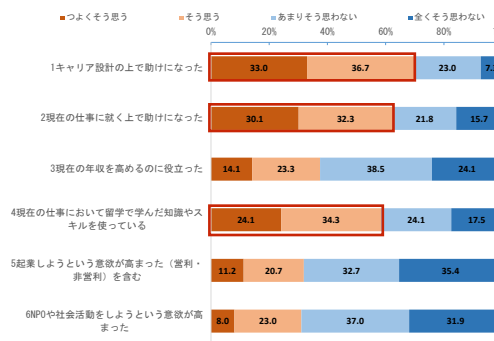
意識の高まりとは対照的に、実際に多様な価値観や文化的背景を持つ人々への支援や交流活動へ参加する割合は3~4割程度にとどまる。政治活動への参加割合は低い。

態度・価値観 n=4,486



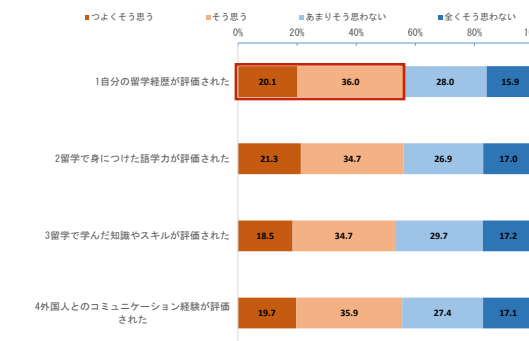
楽観的、新しいことを経験したい（新規性）、転職も厭わない、多様な価値観の人と交流、生活向上意欲の割合が高い。

キャリアへの影響 n=4,486



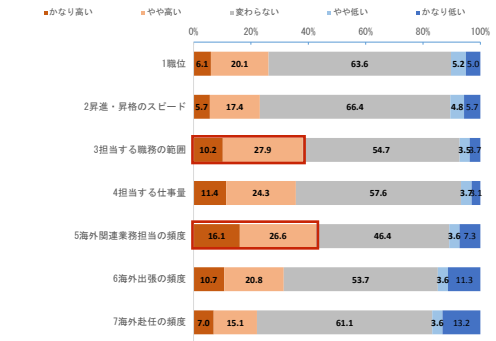
キャリア設計上助けになったのは7割程度。現在の仕事に就く上で助けになった・現在の仕事で留学で学んだスキルを使っているのは6割程度。

採用における評価 n=4,483



採用時に留学経歴が評価されたのは6割弱、4割は評価されていない。その他の項目も概ね6割程度。

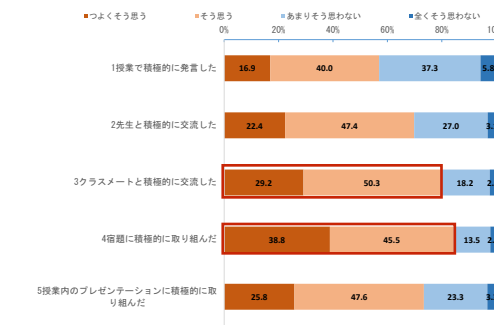
留学未経験者と比較したキャリア処遇上の違い n=2,836



担当する職務の範囲が広い、海外関連業務担当の頻度が高い、の回答が4割程度と高いが、それ以外は2~3割程度。

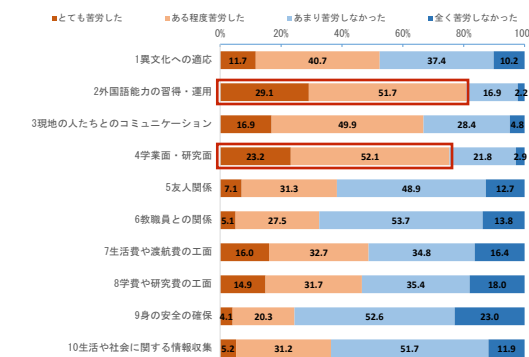
中間ファクター（全体）

授業に関する活動 n=4,487



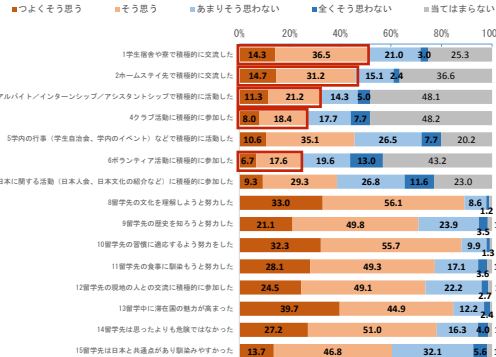
クラスメートとの交流、宿題への取り組みの回答が多い。

留学中の苦勞 n=4,489



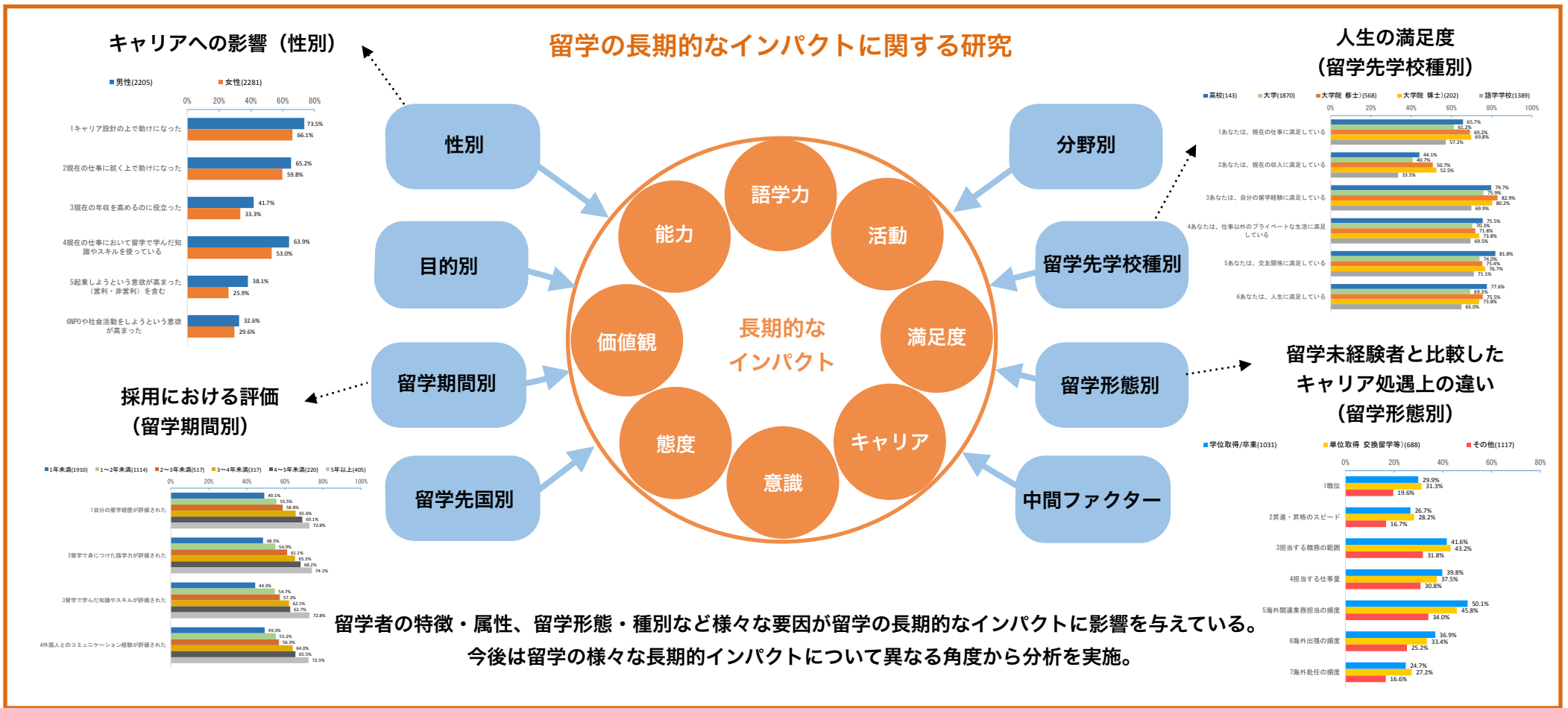
外国語の運用、学業・研究に対する苦勞の回答が多い。

授業以外の活動 n=4,489



寮やホームステイでの積極的な交流は5割近くに上る一方、クラブ活動、アルバイト・アシスタントシップなどの参加割合は高いはない。

留学の長期的なインパクトに関する研究



雇用主調査
2014年に実施

本研究は雇用主調査・留学経験者インタビュー調査などに関連させて分析を行う。

留学経験者
インタビュー調査
2015年夏 実施予定

終わりに

本調査により得られたデータでは、留学には多様な形態・関連要素が存在し、それらによって留学のインパクト（能力・意識・行動・活動・態度・価値観・キャリア・人生など）に違いがあることが示唆されている。今後は様々なグループごとに分類・セグメント化して分析を行っていく予定である。特に、留学期間、留学先学校種別、性別、留学先国別、分野別などの要素から、それぞれの多様な留学形態・種別ごとのインパクトについてモデル化を試みる。また、留学がキャリア、人生の満足度に与える影響などについて、因子分析、クラスター分析、共分散構造分析などを用いてモデルを構築することも目標としている。さらに、分析データに基づき、留学経験者インタビュー調査を実施する予定である。